

美術科学習指導案

学 級： 1 年 1 組 43 人
場 所： 美 術 室
指導者： 教諭 精松 育美

1 題材名 『シャガールからのメッセージ』（鑑賞・表現）

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、シャガールの作品を鑑賞し、制作意図と表現の工夫について見方・感じ方を広げ、それを生かして自分でも同様のテーマで表現に取り組み、制作で学んだことを生かしてもう一度シャガールの作品を鑑賞することで、更に学びを深めていくという、表現と鑑賞を一体させた学習活動である。

今回取り上げるシャガールの作品「私の村」は、シャガールが夢の中で自分が少年時代に過ごした故郷の村を思い出して描いたとされる作品である。動物と触れあう優しい心情や町並み、目に映る周りの人々の様子などが少年の視点で捉えられ、赤や緑の強い色彩と、重なり合う円や二重三重のイメージの重なりによる大胆な構成で描かれており、物語性を強く感じさせ、生徒の興味・関心を引き出しやすいと考える。またこの作品は、色彩について基本的な学習をしたばかりの生徒たちにとって、学習した知識を造形的な視点として作品の鑑賞に活用できることを実感として理解させることができる作品でもある。

自分の想像の世界を自由につくり上げながら、創造的な工夫をして描いたシャガールの作品の鑑賞を参考に、自分が思い描いたことを色彩や構図を工夫して創造的に制作するという表現と鑑賞の一体的な活動を通して、生徒たちは、鑑賞で広げた見方・感じ方を表現する中で生かし、さらに、その表現で得た見方・感じ方を鑑賞で生かすという往還した学びにより、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力をより一層育成できると考え、この題材を設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、明るく元気で仲もよく、美術に関する興味・関心も高い。これまで題材に取り組む中で、色彩や構図についての基礎的な学習にも意欲的に取り組んできた。1学期は校内風景画の制作に取り組んできたが、中には写実的に表現することに価値を求め、絵に表すことに苦手意識をもっている生徒も見受けられた。そこで、1学期後半の「ゴッホに学ぶ」の鑑賞においては、〔共通事項〕を基に多面的に作品を読み解きながら、新しい表現へ挑戦することの大切さに気付かせる学習に取り組んできた。今回の題材では、シャガールの作品の鑑賞において、画家が思い描いたことを工夫して表現していることへ気付き、それを基に実際に自分でも同じようなテーマを工夫して表現するという体験をすることで、積極的に画面を構成し表現するという資質・能力を育成できると考えた。

(3) 指導観

本題材の指導に当たっては、題材全体の構成として「鑑賞」、「表現」、「鑑賞」の三つの場面を設定し、表現と鑑賞の一体化を図る授業構成とする。

まず、最初の鑑賞では、作品との出会いを大切に、個人でじっくりと鑑賞させる（直感的鑑賞）。その後、それぞれの生徒が興味をもった事柄を基に、視点ごとのグループに別れ、分析させる（分析的鑑賞）が、その際、〔共通事項〕の中の形や色彩、美的秩序、表現技法の視点からも捉えさせ、自分の考えに根拠をもたせるようにする。各グループで調べたことを全体で発表して共有させる展開の場面では、他者の考えと自分の考えを「比較」したり、既習事項と「関連」させたり、他の見方を参考にして「多面的」に考えたりといった「シンキングスキル」を活用させることにより、漠然と捉えていたことがより具体的なこととして意識されるようにし、作品をより深く味わう学びにつなげたいと考える。

次に表現では、鑑賞で学んだことを生かしながら、シャガールと同じようなテーマで表現できるように

する。特に、自分の表現が、自分の主題を表すのに合っているのかについて、〔共通事項〕を視点にし、主題と照らし合わせて試行錯誤することを大切にしたい。

終末の鑑賞では、お互いの作品を鑑賞する時間を設定し、それぞれの生徒がどのような思いを込め、どのような工夫をして描いたのかを考えながら鑑賞させるようにする。その際、シンキングスキルを活用して、より深い学びへと結び付けていきたい。そして、最後にもう一度シャガールの作品を見つめさせ、制作を通したからこそ分かる作者の意図や表現の工夫について、深く味わわせたい。

また、生徒が一単位時間で「何ができるようになったか」、「次の自分の課題は何か」ということについて自分で考え、学習の「見通し」をもち、「振り返り」をすることができるように、毎時間「リフレクションシート」を活用する。

このように表現と鑑賞を相互に関連させた題材に取り組ませることにより、心豊かに表現する美術の楽しさを味わい、美意識を高め、見方や感じ方を深めさせたいと考える。

3 題材の目標

- シャガールや自他の作品の鑑賞と自分の表現に主体的に取り組み、表現と鑑賞を往還するよさを味わい、美術を愛好する心情を培うことができる。【興味・関心・態度】
- 鑑賞を通して理解した作者の心情や表現の意図と工夫や造形的な美しさなどを参考に、自分でも想像したことから主題を生み出し、表現の構想を練ることができる。【発想・構想の能力】
- 鑑賞を通して理解した形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを視点とし、自分の主題を表現する際に生かすことができる。【創造的な技能】
- シャガールの作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたり、意見を交換したりして見方や感じ方を広げるとともに、自他の作品についても表現の意図と工夫のよさを感じ取ることができる。【鑑賞の能力】

4 題材の指導計画

(1) 評価規準

ア 興味・関心・態度	イ 発想・構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
鑑賞及び表現の活動に主体的に取り組み、鑑賞を表現に生かしたり、表現で得たことを鑑賞に生かしたりすることを楽しみ、創造活動の喜びを味わっている。	鑑賞を通して理解した作者の心情や意図と工夫や造形的な美しさを参考に、自分で想像したことから主題を生み出し、表現の構想を練っている。	鑑賞を通して理解した形や色彩、材料、光などの性質や、それが感情にもたらす効果などを視点とし、自分の主題を表現する際に生かしている。	自他の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたり、友人と意見交換をしたりして、見方や感じ方を広げている。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	○ シャガールの「私と村」を鑑賞し、自分なりに味わわせる（直感的鑑賞）。 ○ 生徒が興味をもった事柄ごとにグループを分け、「鑑賞の視点」を設定し、作者の表現意図や工夫について分析させる（分析的鑑賞）。分析する際は、〔共通事項〕や既習の美術用語、「シンキングスキル」を意識して活用させ、根拠のある説明ができるようにする。	ア エ

2	○ 各グループで分析したことを発表させ、互いに情報を共有させる。 ○ 発表を聞いて分かったことを基に、シャガールの制作意図や表現の工夫について、〔共通事項〕を視点とし、「シンキングスキル」を活用して考えを交流させる。 ○ シャガールの作品から学んだことを参考にして、「私とふるさと」のテーマで、表現に取り組ませる。 ○ 自分の「ふるさと」について思いを巡らし、イメージマップを基に制作意図（主題）を決めさせ、自分の表現の構想を練らせ、アイデアスケッチを行わせる。	アイエ
3	○ 「私とふるさと」というテーマから焦点化した主題を基に、シャガールの表現を参考にしながら、構図や色彩を工夫して表現させる。	アウ
4	○ 制作の途中では、常に自分の主題と、アイデアスケッチや途中の作品を、〔共通事項〕を視点として照らし合うようにさせ、自分の表現が、主題に迫っているかどうかを確認させ、近くの友人と、主題と表現の工夫について意見交換を行わせ、仕上げに向けて工夫させる。	アウ
5	○ グループで完成した作品について鑑賞し、作品に込めた思いや工夫のよさについてお互いに味わわせる。	アエ
6 (本時)	○ 最初のシャガールの作品の鑑賞で分かったことを振り返らせ、それを生かしながら表現した友達の作品を数点鑑賞し、表現の意図と工夫のよさを感じ取らせる。 ○ 再度シャガールの「私と村」について鑑賞させ、自分でも同じようなテーマで制作をしてみて、新たに感じたシャガールの制作の意図や表現の工夫について意見を交流させ、2度目の鑑賞において鑑賞が深まった理由について考えさせる。	アエ

5 本時の実際（ 6／6 ）

(1) 学習目標

ア シャガールや自他の作品の鑑賞と自分の表現に主体的に取り組み、表現と鑑賞を往還するよさを味わい、美術を愛好する心情を培う。 **【興味・関心・態度】**

イ 自他の作品について表現の意図と工夫のよさを感じ取るとともに、制作の経験を生かして、シャガールの作品の制作意図と表現の工夫、造形的なよさについて深く考えることができる。 **【鑑賞の能力】**

(2) 研究の取組

ア 「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

(7) リフレクションシートの活用

前時の学習で「できたこと」や「今後の課題」から、本時の学習の「見通し」をもたせ、終末に題材全体の「振り返り」を記入させ、次の題材への意欲的な取組につなげた

(4) 知識の理解の質を高めるために

これまで学習してきた〔共通事項〕を基に、黒板に既習事項のカードを常時提示するようにし、表現と鑑賞を一体的に取り扱うことで、理解の質を高めたい。

イ 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

(7) シンキングスキルを活用して自己の考えを形成し、深める場の設定

友人の作品を鑑賞する場面で、〔共通事項〕を視点としながら「シンキングスキル」を用いて思考させることで、多様な意見をもたせ、交流させる。

(イ) 対話的に問題を解決していく場の設定

グループや全体で、「対話的に学習する場」を設定することで、作品の見方や感じ方を広げ、制作意図と表現の工夫について多面的・多角的に捉えさせる。

(3) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	研究の取り組み
導入	3分	一斉	1 前時の確認と本時の目標を確認する。	・ リフレクションシートを活用させて学習の流れを確認させる。	ア－(ア) 前時の学習で記入したことから本時の「見通し」をもたせる。
	5分	一斉	2 シャガールの作品から学んだことはどのようなことであったかを振り返る。	・ シャガールの表現の意図や工夫について分析したことを確認させる。	これまでの学習を振り返り、改めてシャガールの作品を深く味わおう。
展開	15分	全体	3 シャガールの作品を参考にして描いた「私とまち」の作品を数名発表する。	・ 鑑賞と表現の活動の一体化として、シャガールの作品を参考にして、自分の作品にも生かしていったことや自分の工夫点について発表させる。	ア－(イ) [共通事項]を基に表現と鑑賞を一体的に扱うことで理解の質を高める。
		全体	4 友達の発表を聞いて、自分の感じたこと・考えたことをワークシートにメモする。	・ シャガールの作品から学んだことをどのように取り入れているのか、新たな工夫点はどのようなものがあるか、さらに深く想像して感じたこと、について記入させる。	イ－(ア) [共通事項]を視点とし、シンキングスキルを用いて思考させることで多様な意見をもたせ交流させる。
	5分	個	5 再度、シャガールの作品を鑑賞し、改めてシャガールが作品に込めた思いや表現の工夫について考え、さらに深く想像して感じたことをワークシートに記入する。	・ 自分でも制作してみて改めて気付く表現の工夫や作者の思いについて、深く味わわせる。	イ－(イ) 対話的に学習する場を設定することで、作品の見方や感じ方を広げ、制作意図と表現の工夫について多面的・多角的に捉えさせる。
	12分	グループ	6 さらに深く想像し、感じたことをグループで出し合い、意見を出し合う。	・ さらに想像したことについて対話的に交流させ、付せんを書いてシャガールの作品プリント貼らせる。	
	5分	一斉	7 いくつかのグループに発表させる。	・ さらに想像し感じたことを共有させ、深い鑑賞にさせる。	
終末			8 教師の解説を聞く。	・ シャガールの「私と村」についての情報を与える。これにこだわる必要は無く、個人の見方・考え方を大切にするように助言する。	
	5分	個	8 リフレクションシートに本時の振り返りを記入する。	・ できたことや今後の課題について記入させ、振り返りをさせる。	ア－(ア) 振り返りを記入させ、次の課題への意欲につなげる。